

新幼支第876号の2
令和6年10月28日

保 育 園 長 様
認 定 こ ど も 園 長 様
地域型保育事業施設長 様
認可外保育施設長 様
病児・病後児保育事業施設長 様
地域子育て支援センター長 様

新潟市こども未来部
幼保支援課長
(幼児教育・保育グループ)

事故集計報告（令和6年度上半期分）について

日ごろより、園児の健康及び安全について十分ご配慮いただき感謝申し上げます。

また、4月から変更となった「電子申請による事故報告」にご協力いただき、心より感謝申し上げます。お陰様で、スムーズに電子申請に移行でき、事故の内容把握や集計の省力化にも成果を上げているところです。

この度、令和6年度上半期（4月～9月）の事故集計結果がまとまりましたので、別紙のとおりご報告いたします。事故の傾向についてご確認いただき、事故予防の取組の参考にさせていただきますようお願いいたします。

◆問い合わせ先◆

新潟市こども未来部幼保支援課
幼児教育・保育グループ

TEL 025-226-1216

別紙

事故発生報告資料
(令和6年度上半期)

【事故報告件数(R6.4月～9月)】

施設別件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
施設数 報告件数(合計)	177	138	156	123	116	108	818
80 市立保育園	55	43	47	48	39	29	261
1 市立認定こども園	3	0	0	1	1	1	6
47 保育園	32	19	28	20	14	10	123
130 認定こども園	83	73	79	54	58	66	413
26 地域型	3	1	0	0	2	1	7
43 認可外	1	2	2	0	2	1	8
病児・病後児	0	0	0	0	0	0	0
子育て支援センター	0	0	0	0	0	0	0
一時預かり	0	0	0	0	0	0	0
うち県・国への報告	2	1	2	2	1	2	10

令和6年度上半期(4月～9月)の事故報告件数は、818件でした。施設別の内訳は、左の通りです。

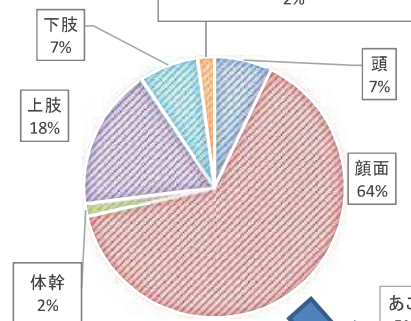
今年度より事故報告方法が変わり、集計も「認可外保育施設」「病児・病後児保育事業施設」「地域子育て支援センター」「一時預かり」を加えることになりました。

事故報告件数は、施設数や園の規模によって異なりますが、全体の様子を参考にしながら、自園の事故発生率を確認するなど事故予防に努めていただきたいと思います。

今年度は、国報告となる「重大事故」が上半期で10件と例年より早いペースで発生しています。10件すべて「骨折」で、その内訳は、上肢8件、下肢1件、歯骨1件でした。

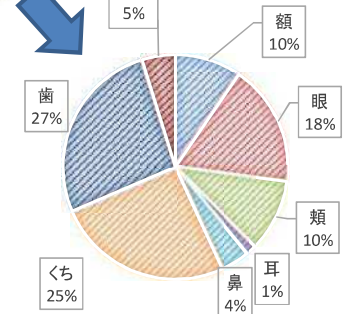
部位別件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
報告件数(合計)*	177	139	161	124	116	109	826
部位別※							
頭	15	11	10	14	6	3	59
顔面	117	85	100	76	77	76	531
体幹	1	2	4	2	2	2	13
上肢	28	27	36	20	13	21	145
下肢	13	12	7	8	15	6	61
その他(誤飲・誤食・異物など)	3	2	4	4	3	1	17
顔面							
額	16	8	9	12	5	8	58
眼	23	14	17	12	18	22	106
頬	10	10	11	10	11	11	63
耳	2	2	0	2	1	2	9
鼻	5	6	8	2	3	1	25
くち	35	23	35	19	21	21	154
歯	34	27	31	24	26	19	161
あご	12	4	5	2	3	3	29

部位別



*1・*2・*3
事故報告件数
部位別件数
負傷別件数が
一致しないの
は、1件の事故
で複数部位や複
数の負傷をした
ケースがあるた
め

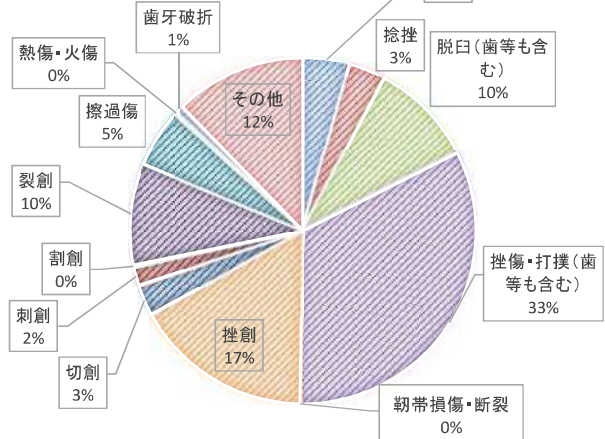
顔面内訳



部位別では、全体の64%が「顔面」のケガでした。「顔面」の内訳は右のグラフに示してあります。口・歯のケガが全体の半分を占めていることがわかります。

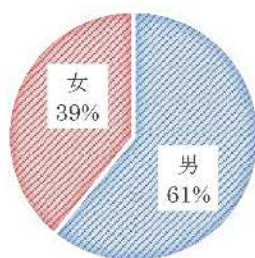
負傷別件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
報告件数(合計)*	189	147	164	129	130	114	873
負傷別※							
骨折	6	9	7	7	7	2	38
捻挫	4	7	3	3	6	7	30
脱臼(歯等も含む)	22	14	17	11	10	11	85
挫傷・打撲(歯等も含む)	58	53	48	45	43	39	286
靱帯損傷・断裂	0	0	0	0	0	0	0
挫創	43	32	20	16	18	17	146
切創	9	3	1	5	4	3	25
刺創	5	4	1	3	0	2	15
割創	0	0	1	0	1	0	2
裂創	16	7	18	13	17	12	83
擦過傷	9	5	14	8	5	7	48
熱傷・火傷	1	0	1	0	0	0	2
歯牙破折	0	1	1	2	1	1	6
その他	16	12	32	16	18	13	107

負傷別

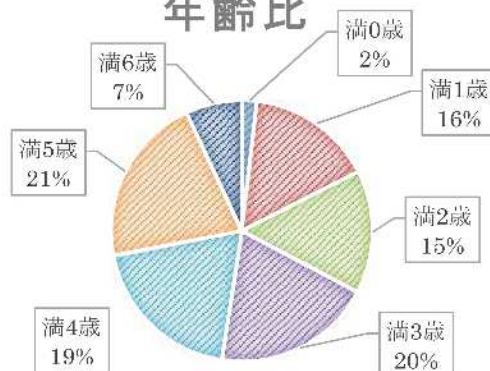


男女比は 約6:4で例年の傾向通り。年齢別では、満3歳～満6歳の事故が多く発生しています。重大事故も10件とも満3歳以上でした。

男女比



年齢比



【国報告を行った重大事故】R6.4月～9月

10件すべて「骨折事故」です。こどもの骨は柔らかく「完全骨折」することはあまりないようですが、肘の骨折は、脱臼を伴うなど「手術」になるケースが多く、上半期だけで4件発生しました。

月	満年齢 性別	場所	発生状況
	傷病名	時間	
4月	5歳 男児 右前腕骨折	園庭 9:30 頃	3・4・5歳児で園庭で遊んでいた。総合遊具で遊んでいたところ転倒して柵に右手をぶつける。ギプス装着期間30日を超えた。
4月	3歳 男児 右脛骨折	遊戯室 9:25 頃	約1メートルの高さの技巧台から、職員と手をつなぎ飛び降りていたところ、着地に失敗し右足の脛をマットに打ち付けた。
5月	6歳 女児 左橈骨遠位端骨折	園庭 10:00 頃	園庭で鬼ごっこをしていたところ、やぐらの丸太の階段を上り、逃げようとして足を踏み外し転落。
6月	5歳 男児 左腕橈関節脱臼 尺骨近位部骨折	遊戯室 9:30 頃	カラー積み木の上に乗ろうとした際、踏み外し、左腕の方から床に転倒した。(手術あり)
6月	4歳 女児 右前歯乳歯骨折	園庭 14:25 頃	ビニール袋に入った水をステージ上にまいた直後滑って転倒し顎と口をステージ床にぶつけた。ワイヤー固定約 60 日間。
7月	5歳 男児 右上腕骨顆上骨折	園庭 15:20 頃	延長保育時間中、大型総合遊具のネットに上っていた際、上部の手すりをつかみ損ねバランスを崩し、ネットの脇より転落。上腕を地面に打ち付けた。(手術あり)
7月	4歳 男児 左上腕骨顆上骨折	保育室 12:15 頃	食事後、トラブルで他児を叩いたため、保育者が話を聞こうとしたところ、その場を離れようと走り出し、床に落ちていたおもちゃのふたを踏み、滑って転倒。左ひじを床にぶつける。(手術あり)
8月	5歳 男児 右肘頭骨・右橈骨頸部 右尺骨鉤状突起骨折	遊戯室 11:00 頃	鬼ごっこをしていたところ、他児とぶつかり、右手を曲げた状態で転倒。(手術あり)
9月	6歳 男児 左前腕骨折	遊戯室 16:25頃	延長保育中、走り回って遊んでいたところ足を滑らせて転倒。
9月	5歳 男児 左上腕骨顆上骨折	遊戯室 11:10 頃	ドッジボールをしていた。他児が投げたボールが本児に当たり外野に出ようとしたとき、他児の足に引っ掛かり転倒。咄嗟に手が出ず左ひじから床についた。

◆小児の骨の特徴は？

成人と比べて【非常に柔らかい】

◆小児の骨折の特徴や種類は？

小児の骨折の特徴は、骨が柔らかいことから
「ポキン…」

と完全に折れることはなく、まるで、若木を折ろうとした時のような
凸側が裂け、凹側の連続性が保たれた様の状態を呈します。
これを【若木骨折】と言います。



若木骨折とは反対に、凸側の連続性が保たれた状態で、凹側に
隆起ができたようになって折れる場合があります、これを【隆起骨折】と言います。

さらに、力学的にも脆弱とされる、成長軟骨が存在している関節の周囲では
【骨端骨折】を生じることもあります。



これらの骨折全てに共通することが、小児の骨折は成人よりも骨癒合が早い
という点です。血行が豊富なことから、癒合にかかる期間もなんと成人の
2/3 程度短いと言われています。

さらに、自家矯正力が備わっており、多少の転位などでも、回復の過程でまっすぐに骨癒合するのです。
だからと言って、放置してはいけません。
小児の骨折にも幾つかの後遺症を残しかねない、重大な症状があるのです。

◆小児の骨折の後遺症とは？

小児の骨折には、見逃してはいけない重大な症状があります。

それは、「成長障害」「過成長」の二つです。

いずれも後遺症を残し、いずれ手術などの治療を必要とする場合があるので注意が必要です。



【成長障害】

成長障害は、文字通り「成長の過程で障害が生じること」です。成長に伴い、骨成長が止まる、曲がる
などの障害が生じます。特に、骨端線の骨折である【骨端骨折】において、一旦骨折すると軟骨が死んで
しまい、成長が損なわれてしまうことがあるのです。その結果、折れなかった部分より短くなったり、
曲がって成長してしまう場合があるのです。

【過成長】

文字通り、成長が過剰に生じてしまい、反対側の下肢より長くなってしまいます。

「ちょっとくらい違って…」と思うかもしれませんが、脚長差は二次的に様々な身体的障害を招くので
注意が必要です。

◆まとめ

小児の骨折は、正しく症状を訴えることができないこともあり
発見が遅れてしまうことがあります。

重大な後遺症を招くリスクもあるので、**早期発見・早期治療**を心がけましょう！

